

令和7年度 調布市立第三中学校 学校評価報告書（学校長 児山 友美）

学校の教育目標	
1 自ら学び考え、向上しようとする人（重点目標） 2 自他を思いやる、心豊かな人 3 心身を鍛え、たくましく生きる人	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<目指す学校像> 1 学ぶ楽しさを実感し、将来の自己実現に向けて互いに高め合える学校 2 生徒一人一人の個性を尊重し、高い人権感覚をもち、自他ともに大切にできる学校 3 保護者・地域とともに子どもを育て、困難や障害を克服する力を育める学校	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	予測困難で、不安定な国際状況に生きることになる生徒たちに、自ら考え、情報を精選し、判断し困難を乗り越える力が必要な時代であるため。そのために、以下の力を育てていく。 1 社会の変化に主体的に対応でき、自らのキャリアを構築できる力の育成 2 命の大切さを知り、人権尊重の理念のもと、多様性を認め合う人間関係形成力の育成 3 失敗や困難を乗り越え、社会を生き抜く力の育成

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)		
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①二者及び三者面談およびSCとの1年生全員面談の実施。毎月の心のアンケートの実施。いのちの授業の実施。	A	①協働的な学びを充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実現。年3回の授業研究の実施。	A	①達成感や充実感のある学校行事(運動会や合唱コンクールなど)の実施や部活動による体力の向上。	A
	②Q-Uを活用したいじめや不登校を生まない集団作りに向けた学級経営。	A	②ICT機器を活用した工夫した授業の実施。	B	②安全意識や危機回避への意識向上に向けた訓練や研修等の計画的な実施。	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①学校評価アンケートの肯定的評価 目標90%以上→97%	A	①授業アンケートの肯定的評価 目標85%以上→92.5%	A	①学校評価アンケートの肯定的評価 目標90%以上→95%	A
②学校評価アンケートの肯定的評価 目標90%以上→91%	A	②授業アンケートの肯定的評価 目標70%以上→80%	A	②学校評価アンケートの肯定的評価 目標80%以上→100%	A	
学校運営協議会評価	「学校に行くのが楽しい」「この一年間いろいろなことを学び成長した」という項目で生徒の評価が高いことは、素晴らしい。生徒が自身の学びに充実感をもち、成長している実感があるのだと思う。生徒が命の大切さや社会のルールを学んでいるという意識が高いところも評価できる。さらに保護者へのPRの仕方を工夫するとよい。		「授業はわかりやすい」と答えた生徒が92%以上いるということは、素晴らしい。ICT機器を活用した授業を先生方が工夫されていることもあり、生徒の高評価につながっているのではないかと。今後もICT機器を活用した工夫した授業を行い、生徒の力をつけさせてほしい。		「学校行事は楽しく充実している」と答えた生徒が95%、保護者が97%と高評価である。学校行事は、生徒、保護者、教員も楽しまれており、とてもよかった。生徒たちの充実感があることは素晴らしいし、良い経験となっているのだと思う。今後も三中の特色として盛り上げてほしい。安全意識や危機回避について、引き続き、意識向上の取組を行ってほしい。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
4 特別活動の充実		5 組織的な教育相談		6 キャリア教育の推進		
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①生徒会朝礼や部活動オリエンテーションなどの生徒の自主的な活動の実施。	A	①特別支援教育及び教育相談に関する研修の実施による発達支持的生徒指導の充実。	A	①エナジードを活用し3年間を見通したキャリア教育の実施。	B
	②自分の考えの構築や探究心の育成に向けた朝読書の実施。	A	②教育相談的な指導の組織的な対応の推進。定期的な校内委員会の実施。	A	②体験的な活動を重視するとともに、小中連携を踏まえたキャリアパスポートの活用。	B
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①学校評価アンケートの肯定的回答 目標80%以上→91.7%	A	①学校評価アンケートの肯定的評価 目標80%以上→95.9%	A	①学校評価アンケートの肯定的評価 目標80%以上→84%	A
②学校評価アンケートの肯定的回答 目標70%以上→100%	A	②学校評価アンケートの肯定的評価 目標80%以上→95.9%	A	②学校評価アンケートの肯定的評価 目標70%以上→70.8%	B	
学校運営協議会評価	生徒会や部長会など、学業以外の面でも生徒が自主的に活動できる場が多いことが望ましい。やらされている活動でなく、生徒にとって必要な活動となるとよい。朝読書の時間やピリオバトルなどの活動があることは、読書への興味関心をもたせるよい取組であると思う。		組織がしっかりしていて、細かく対応できていることが高評価につながっていると思う。先生だけでなく、周りに相談できる大人がいることが大切であると思う。今後も「相談できる大人の存在」の認識を生徒や家庭にもってもらえるように働きかけていけるとよい。		エナジードを活用した授業は、将来生きていく上で大切なことを学べる機会となっているが、内容が難しいと感じている生徒もいた様子である。今後、さらに生徒の実態に合わせた指導を行い、成果が出てくるとよい。体験的な活動は、生徒にとって意義あるものなので、ぜひ積極的に続けていけるとよい。キャリアパスポートは、生徒自身で振り返りができることがよい。	

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 各学年や各教科、分掌組織を中心とした校内 OJT の実施を通して、組織的な学校運営の推進を図ることができた。今後は、特に若手教員が増えているので、校務分掌を意識した OJT を強化する。 朝の主任会や運営委員会を通して、主幹教諭や主任教諭として職層に応じた学校運営への意識を向上させることができた。新組織においてさらに活性化させる。 教育相談委員会を定期的に実施し、組織的な教育相談体制で情報の共有や支援方法の検討等を行うことができた。各学年に特別支援コーディネーターを置き、生徒理解についてリーダーとなる教員の育成を図ることができた。
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成は、今後の教育活動において大切なことであるので、引き続き、お願いしたい。 生徒も先生も育つ学校であることを期待している。 教育相談委員会を中心とした学校全体の体制がしっかりしていて、教員の意識向上がみられていてよい。 今後も生徒が豊かに生活するために必要なサポートを組織的に行っていけるとよい。

中期的な経営目標の達成状況	
1	<p>全教育活動を通して自他の生命や人格を尊重し、違いを受け入れ、多様な人々と協働できる人権意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を図るとともに、計画的な学級経営の中で、いじめや不登校を生まない集団作りを目指す。</p> <p>→ 豊かな心 アンケートにおいて、肯定的評価が90%以上である。また、Q-U 調査を 2 回実施し、分析結果を学級経営に活用することができた。今後も、道徳の授業や人権教育を中心にしながら、自他を大切にすることを育てる。</p>
2	<p>基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、学習環境の整備や ICT の有効的な活用により生徒が自ら学ぶ力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>→ 確かな学力 生徒アンケートにおいて、学習への意欲は90%であるが、保護者アンケートにおいては、79%程度である。今後も、ICT 機器を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。</p>
3	<p>保健体育の授業や保健指導、学校行事等を通して、食に関する意識や体力の向上、心身の健康に対する意識啓発を図る。</p> <p>→ 健やかな体 学校行事では、多くの生徒が積極的に取り組み、97%が充実していると感じている。昼休みの校庭開放で体を動かす生徒も多い。また、食育についても、生徒会活動の一つとして毎日食育放送を行い、生徒の食への意識の向上を図ることができた。</p>
4	<p>自立・自律できる健全な生徒の育成を目指すとともに、話し合い活動を重視し、学級活動や教科との連携や生徒会活動との連携を図り、自分の考えを表現できる主体的な生徒を育成する。</p> <p>→ 特別活動の充実 授業において、話し合い活動や発表する活動を取り入れることで、生徒が自分の考えを表現できる場を設定した。それを基盤として、修学旅行や校外学習でのルールの検討や生徒会主催交流会などの主体的な取組が見られた。今後も、全教育活動に広げていく。</p>
5	<p>教育相談委員会を中心として教育相談の充実を図り、一人一人の生徒に寄り添う指導や、個に応じた適切な支援の実施など、組織的な対応を推進する。</p> <p>→ 組織的な教育相談 教育相談委員会を定期的に開催し、各学年の実態を踏まえた適切な支援の充実を図ることができた。今後も組織的に生徒一人一人に応じた支援を行っていく。</p>
6	<p>教育活動全体を通じて、自己実現に向けて主体的に進路を切り開く力を育てるとともに、向上心を持ち、粘り強く努力し、困難を乗り越える強い意志を育てることを重視したキャリア教育を行う。</p> <p>→ キャリア教育の推進 次世代型キャリア教育教材を活用し、各学年の生徒の実態に合わせたキャリア教育の推進を図ることができた。今後は、さらに学校の実態に合わせた体系的なキャリア教育の推進を図る。</p>
人・組	<p>教職員間の連携を密にし、OJT を活用した人材育成と組織的な指導体制を確立する。</p> <p>→ 教職員同士の日常的なコミュニケーションを通して共通理解を図ることができた。今後は、さらに教職員個々の OJT への意識を高め、職層を意識した組織的な指導体制の確立を図っていくことが必要である。</p>
次年度の重点課題	
<p>○自他の生命や人格を尊重し、多様性を認め合う人間関係形成力を育むとともに、自らのキャリア教育を構築できる力の育成を図っていく。</p> <p>○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して、ICT 機器を有効的に活用し、生徒の主体的な学びを促す学習活動を推進していく。</p> <p>○教育相談を充実させ、生徒一人一人に寄り添った支援を行っていく。</p>	